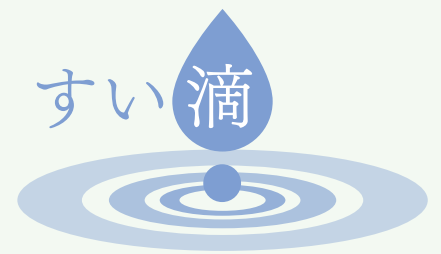


# いんばぬま 印旛沼の思い



水土里ネット印旛沼 前理事長 **清水 豊勝**

私が理事長に就任したのは、水資源機構が沼の水位を安全に保つための印旛沼開発施設緊急改築事業に着工した直後の平成13年12月であった。ゆえに、私が取り組む最重要課題は、事業計画案や財政の問題から先が見えない国営事業の着工を掲げ、一日も早いゴールを目指した。

国営事業計画を進める渦中、土地改良法が改正され「環境」の文字が記されたこともあり、平成22年度に着工した国営かんがい排水事業「印旛沼二期地区」は、全国で初めて「国営流域水質保全機能増進事業」として実施しており、農業用水の安定供給とともに印旛沼の水質保全に大いに寄与するものと期待している。

平成23年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖地震が発生した。印旛沼の堤防は大きく割れ、約1000箇所の漏水被害が発生する甚大なものであった。今では何事もなかった印旛沼を取り戻しているが、地震発生後の初期行動と関係機関の協力、なにをもって土木業者の貢献は大きいものであった。

平成25年秋、国営事業の着工と事業の進捗が安定したことで理事長職の退任を決意した。そんな折、台風26号のもたらした未曾有の降雨で、管理開始以降、最大となる水害が発生した。被災箇所では、一刻も早い内水排除が求められたが、水資源機構の計らいから、応急ポンプが設置され、早い時期に浸水が解消された。管理する者の痛さを理解している水資源機構ゆえ、瞬時の協力をいただいたことに感謝申し上げる。

常々、水資源機構との相互理解、これによる連携・協働は大切なものとして土地改良区の運営を図ってきた。どちらかが欠けてしまえば、円滑な水利用も、緊急時の排水もできなくなっており、水資源機構が果たした役割は大きく、安定と安心は水資源機構のおかげと思っている。

また、母なる印旛沼の恩恵を受ける一人として、あたりまえの行動をとっていたにもかかわらず、これら評価により退任にあたり水資源機構から感謝状をいただき、身に余る光栄と思っている。



印旛沼



白山甚兵衛機場 吐水槽底版コンクリート打設 (H26.4.25)